

海洋安全保障の多面性とその調整

松浦正浩 大学院公共政策学連携研究部

このイニシアチブでは、「安全保障」をキーワードに、さまざまな問題を包括的にとらえつつ、個々の問題について、多様な学問分野、たとえば国際法、政治学、交通計画などの観点から、歴史的な検討を踏まえつつ、分析を加えました。具体的には各テーマについて、多様なバックグラウンドの研究者が、以下の活動を行いました。

① 新たな安全保障上の課題と国際法

テロリストの移動や大量破壊兵器の海上輸送といった犯罪を取り締まるための公海上での船舶検査、および国連安保理決議の経済制裁を実施するための海上での禁輸措置といった、近年実施されるようになった海上での安全保障措置について、その法的性質を考察しました。

② 海上交通に関する安全保障

東日本大震災発生後の福島第二原子力発電所からの放射能漏洩が日本発着の国際海上交通へ与えた影響に関する調査分析を行いました。

③ 海洋環境に関する安全保障

油濁による自然環境の影響について、長期のリスクシナリオの検討にあたって、予測が困難な長期リスクの一つとして戦争発生時におけるリスクへの対応とし

て船舶戦争保険を事例にリスクマネジメントの在り方や国家再保険等について歴史的経緯や現状について整理しました。

④ 海洋安全保障における組織間協力と国際協力

東アジアにおける海洋安全保障のための国際協力の課題および省庁間協力体制構築のための課題について実務家の知見を取り入れつつ多角的な視野から考察しました。

⑤ エネルギーに係る安全保障

海洋再生可能エネルギーについて、電力供給源としてのポテンシャルや、立地選定に係る社会的課題等について検討を行いました。

研究テーマの題目からわかるように、海の「安全保障」は多面的にとらえることができます。安全保障は、防衛や境界画定などの問題として狭く定義されることが多いのですが、本研究により、これらのトラディショナルな概念に加えて、環境や交通などの安全保障についても、海の安全保障の課題として位置づけることが妥当であることを確認しました。今後、これらを統合する海の安全保障の概念について、引き続き、問題の構造化と深化を試みたいと考えています。